京都芸術センター通信

KYOTO ART CENTER NEWSLETTER

February 2019
Vol.225

02

発行｜京都芸術センター
2019年1月20日

❶44 宝生流×金剛流-くらべて観る能の世界-(2010) ❷52 ガンダム講談(2014) ❸53 手妻×奇術(2015) ❹54 石見神楽(2015) ❺57 浪曲×ブルース(2016) ❻56 箏曲(2016) ❼番外編Katastrophe_(2003) ❽番外編 青頭巾(2005)

「継ぐこと・伝えること」では、伝統芸能の現在に着目し、実演や解説などを交えてわかりやすく紹介することで、芸能の継承の意義について観客と出演者がともに考える機会を創出しています。2000年の開館以来、能、狂言、文楽、邦楽、邦舞、講談など、様々な芸能を紹介してきました。さらに、番外編として、伝統芸能と他の舞台芸術とのコラボレーション等にも取り組み、あらたな伝統芸能の姿を模索しています。

今年度は、「享楽」をテーマに、落語と日本舞踊を取り上げます。芸能に心を奪われ、また観たいと思う、この歓びへの欲求を享楽と捉えました。目にしたものに惹かれ、焦がれる感情は、人間の根源的な欲求であり、芸能の鑑賞には付きものではないでしょうか。また、芸能を継承し、人生をかけて研鑽を重ねる実演者も同様に、芸能に魅了されてこそと思います。時代を越え、変容しながら、絶えず観客・実演者の心を掴み続ける、伝統芸能の魅力とは一体どのようなものなのでしょうか。今回の出演は、実力・人気とも注目を集める、中村壱太郎(かずたろう)氏。次代を担う芸能へのまなざしにご注目ください。

TOPIC 01

KAC Performing Arts Program 2018
/ Traditional Performance

継ぐこと・伝えること62

享楽×恍恍惚惚(こうこうこつこつ)

男舞・女舞

写真提供：松竹(株)

昨年11月には、享楽シリーズ第一弾、継ぐこと・伝えること61『享楽×呵々大笑(かかたいしょう)』を開催し、柳亭小痴楽氏による落語「一目上(ひとめあが)り」「干物箱」の実演とトークで紹介しました。トークでは、小痴楽氏が落語を始めたきっかけや、師匠の教え、同期の落語家・講談師との交流等についてお話を伺い、落語への実直な向き合い方が強く印象に残る会となりました。昨年末に、今年9月に真打へ昇格することが発表され、ますます目が離せません。

第二弾となる62『享楽×恍恍惚惚(こうこうこつこつ)』では、日本舞踊を、歌舞伎俳優で、吾妻流七代目家元 吾妻徳陽(とくよう)でもある中村壱太郎氏による実演とレクチャーで紐解きます。実演は、かつらや衣装をつけずに袴で踊る素踊(すおどり)にて、男舞・女舞それぞれを一演目ずつ行います。一つの公演で、同じ舞踊家の男女の演じ分けを、一切ごまかしが利かない素踊で観ることができる、滅多にない機会です。また、同氏によるレクチャーでは、日本舞踊がどのような特徴をもった舞踊であるかや、男舞・女舞の違い、踊りに欠かせない音楽等についてお話しいただきます。日本舞踊がお好きな方は勿論、初めてご覧になる方にもお気軽にお越しください。

61 享楽×呵々大笑(2018年11月17日実施／柳亭小痴楽) photo by Renji Tachibana

また観たい、もっと観たい、と芸に心を奪われるのは、楽しく幸せなことです。こんな気持ちが芸能を支え、現在に至るのならば、伝統芸能は大変な人数を幸せにしてきたのだと感慨深いものがあります。

堀越芽生子(アートコーディネーター)

Profile

中村壱太郎(吾妻流七代目家元 吾妻徳陽)

1990年8月3日生まれ。1991年11月京都・南座〈三代目中村鴈治郎襲名披露興行〉『廓文章』の藤屋手代で初お目見得。1995年1月大阪・中座〈五代目中村翫雀・三代目中村扇雀襲名披露興行〉『嫗山姥』の一子公時で初代中村壱太郎を名のり初舞台。2007年に史上最年少の16歳で大曲『鏡獅子』を踊る。2010年3月に『曽根崎心中』のお初という大役に役柄と同じ19歳で挑む。現在、女形を中心に歌舞伎の舞台に精進しつつ、ラジオやテレビなどにも活動の場を広げている。また「春虹」の名で脚本執筆、演出にも挑戦中。2013年3月慶應義塾大学総合政策学部卒業。2014年9月吾妻徳陽として日本舞踊吾妻流七代目家元襲名。映画『君の名は。』では、ヒロイン・三葉と四葉の姉妹が舞う巫女の奉納舞を創作。

KAC Performing Arts Program 2018
/ Traditional Performance
継ぐこと・伝えること62『享楽×恍恍惚惚(こうこうこつこつ) −男舞・女舞−』友

日時：2月11日(月・祝) 受付13:00 開場13:30 開演14:00
会場：講堂
出演：中村壱太郎(吾妻流七代目家元 吾妻徳陽)
　　長唄：杵屋禄三、今藤小希郎
　　長唄三味線：杵屋勝七郎、今藤長三朗
　　立鼓：中村寿鶴
司会：広瀬依子(追手門大学国際教養学部講師)
料金：一般前売1,800円／当日2,000円、高校生以下500円(前売・当日共)

プログラム
◎実演・素踊　長唄『藤船頌(とうせんしょう)』中村壱太郎
◎レクチャー・ワークショップ「日本舞踊とは」
◎レクチャー「日本舞踊の音楽について」
◎実演・素踊　長唄『島の千歳(しまのせんざい)』中村壱太郎

EVENTS

各種イベント申込方法（別途記載のあるもの、共催事業、制作支援事業は除く）
催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、TEL、FAXで事前にお申込ください。チケット窓口でも受け付けます。
※友印の公演は、京都芸術センター友の会のご招待券・ご優待割引対象公演です（制作支援事業は京都芸術センターチケット窓口取扱公演のみご優待。共催事業はご優待対象外）その他、友の会特典詳細についてはウェブサイトをご覧ください
※各種年齢別・学生料金は要証明書呈示

美術

『藝文京展EX ～つなぐ～』

【展覧会】
会期：1月12日（土）−2月11日（月・祝）
10:00−20:00
※会期中無休・入場無料
会場：ギャラリー北・南　ほか
出展：石橋志郎、伊藤学美、大友一世、川上幸子、北村隆浩、給田麻那美、桐月沙樹、葛本康彰、坂本優子、大東真也、谷尚樹、中村敦、三木啓樂、箕浦徹哉、山﨑純子

［関連企画］
ギャラリートーク
日時：2月6日（水）16:00
会場：ギャラリー北・南　ほか
ナビゲート：松尾恵（ヴォイスギャラリー）
※無料・事前申込不要

【茶会】藝文京茶会
日時：2月10日（日）
11:00／13:00／14:00／15:00
会場：和室「明倫」（待合：ミーティングルーム2）
出展：北村隆浩、給田麻那美、葛本康彰、小筆凰外、島田晶夫、大東真也、谷尚樹、三木啓樂、箕浦徹哉、山﨑純子
コーディネート：マイケル・ハーディ（裏千家淡交会総本部国際部）
参加料：1,000円
定員：各回20名（先着順／要事前申込）
主催：京都市、公益財団法人京都市芸術文化協会（京都芸術センター）

京都文化力プロジェクト2016−2020

ワークショップ
「ヨタとつくろうカラオケ背景映像！」
日時：1月26日（土）、2月3日（土）
13:00−16:00（両日共）
会場：ミーティングルーム2（1月26日）
和室「明倫」（2月3日）
対象：1日だけ参加の方は事前にお知らせください。両日参加がのぞましい
料金：無料
定員：12名（先着順／要事前申込）
持物：デジタルカメラあるいはスマートフォン
※お持ちでない方には貸し出し可

「おも茶会」
日時：2月7日（木）11:00／17:00
席主：山崎伸吾（ディレクター、音楽家）
会場：大広間（待合：講堂）
※申込受付は終了しました

主催：京都文化力プロジェクト実行委員会
※Topic04（P3）もご覧ください

KAC Curatorial Research Program vol.01
『逡巡のための風景』
関西圏外を拠点に活動する若手キュレーターが、京都のローカルな問題と出会うことで、新たな視点でキュレーションを実践するプログラム。約一年間のリサーチを基とした展覧会を開催。
日時：2月19日（火）−3月31日（日）
10:00−20:00
※会期中無休・入場無料
会場：ギャラリー北・南
出展：イシワタマリ、大見新村プロジェクト、八幡亜樹
ゲストキュレーター：青木彬（インディペンデント・キュレーター）

［特別企画］
Swing観光案内所「他人ごと面してんじゃねーよ」
これまでの「障害福祉」の枠を超えて活動するNPO法人スウィングの、「ただあることを認めあう」日常に繋がる観光案内所が現れます。
※詳細はウェブサイトをご覧ください

とまどいのラジオ
「逡巡」をテーマに様々なゲストを招いたトーク音源をウェブ上で順次公開。
WEB：https://soundcloud.com/user-827476320

［関連企画］

ギャラリーツアー
日時：2月23日（土）13:00
集合：ギャラリー南

オープニングパーティ
日時：2月23日（土）16:00
会場：ミーティングルーム2

※入場無料・事前申込不要

明倫茶会

「盆栽と林檎の茶會」友
日時：2月17日（日）
13:00／14:00／15:00／16:00
席主：川﨑仁美（盆栽研究家）
空間：若林麻耶
本席：講堂
待合：ミーティングルーム2
内容：盆栽、タルトタタンと煎茶
料金：1,000円
定員：各席20名（先着順／要事前申込）
※Topic03（P4）もご覧ください

伝統

伝統芸能文化復元・活性化共同プログラム
中間報告会
伝統芸能文化の継承・活性化を目的に、公募で募集し採択したプログラムの中間報告会。
日時：2月2日（土）18:00−20:00
会場：フリースペース
報告内容：「上鳥羽の芸能六斎の復活を目指して-祇園囃子の創作-」
「柳川三味線のための胴皮新素材開発」
「ゴッタンの製造技法および基礎資料のアーカイブと交流ネットワークの創出」
定員：50名（無料・事前予約可）

伝統芸能文化創生プロジェクト
シンポジウム&公演「変わりゆく伝統芸能」
日時：2月3日（日）
14:00−17:00（開場13:30）
会場：講堂
出演：小岩秀太郎（東京鹿踊代表）、清水賢二郎（岡山県神社庁所属神楽師、備中神楽北山社、芳友会所属）、十川みつる（讃岐獅子舞保存会会長）、原田一樹（京都・祇園祭綾傘鉾囃子方）ほか
料金：無料
※申込受付は終了しました

KAC Performing Arts Program 2018
/ Traditional Performance
継ぐこと・伝えること62
『享楽×恍恍惚惚（こうこうこつこつ）―男舞・女舞―』友
日時：2月11日（月・祝）
開場13:30 開演14:00
会場：講堂
出演：中村壱太郎（吾妻流七代目家元吾妻徳陽）
演目：長唄『藤船頌』『島の千歳』
料金：一般前売1,800円／当日2,000円
高校生以下500円（前売・当日共）
※Topic01（P1）もご覧ください

演劇

KAC Performing Arts Program 2018
/ Contemporary Theater
「Re-search & Re-direction：
かかわりの技法」リサーチ報告会
日時：2月28日（木）18:00−21:00
会場：講堂
登壇：山口惠子、川那部香乃（BRDG）ほか
料金：無料
定員：30名（要事前申込）

音楽

みみききプログラム #3
Kyo×Kyo Today
『バロック音楽へのいざない』友
日時：2月1日（金）開場18:30 開演19:00
会場：講堂
出演：中川佳子（フルート）、高山郁子（オーボエ）、石丸美佳（コントラバス）、井幡万友美（チェンバロ）
料金：一般前売1,800円／当日2,000円
学生1,000円（前売・当日共）
※みみききプログラム共通の半券割引が利用できます
主催：京都芸術センター、京都市交響楽団

KAC Performing Arts Program 2018
/ Music #1
中川裕貴『ここでひくことについて』友
日時：2月22日（金）16:30（C）18:00（A）19:30（B）
23日（土）15:00（B）16:30（C）18:00（A）
24日（日）13:00（C）14:30（B）16:00（A）
会場：講堂、フリースペース、大広間
出演：中川裕貴（チェロ）、菊池有里子（ピアノ）、横山祥子（ヴァイオリン）ほか
料金：【各演目（日時指定）】
一般前売1,500円／当日2,000円
学生1,000円（前売・当日共）
【3演目通し（30枚限定、前売のみ、予約時日時指定）】
一般3,500円／学生2,500円
※Topic02（P4）もご覧ください

みみききプログラム #1
明倫レコード倶楽部
「喜怒哀楽のレコードの旅」［其ノ68］
楽の会友
日時：3月2日（土）開場13:30 開演14:00
会場：講堂
講師：いしいしんじ（作家）
料金：500円（1ドリンク付）

ダンス

KAC Performing Arts Program 2018
/ Contemporary Dance

『シティI・II・III』友
日時：1月25日（金）15:00（III）17:30（I）20:00（II）
26日（土）15:00（I）17:30（II）20:00（III）
27日（日）13:30（III）16:00（II）18:30（I）
会場：講堂
料金：各演目（日時指定）
一般前売2,500円／当日3,000円
U25（前売のみ）1,000円

ダンスを語る言葉
トーク「おもしろい！ ダンス映像を観て語る会」
日時：2月25日（月）19:30−21:00
会場：ミーティングルーム2
ゲスト：きたまり（KIKIKIKIKIKI）
料金：無料
定員：30名（要事前申込）

トーク

レザルティスミーティング2019京都
「創造的遭遇−アーティスト・イン・レジデンスの再想像」
日時：2月6日（水）−8日（金）
会場：京都芸術センターほか
※申込受付は終了しました

【基調講演】「変転する社会情勢とアーティスト・イン・レジデンスの役割」
日時：2月6日（水）14:00−15:00
会場：フリースペース
登壇：近藤誠一（公益財団法人京都市芸術文化協会理事長、元文化庁長官）
※無料・要事前申込

主催：京都市、京都芸術センター、レザルティス財団、文化庁

※Topic04（P4）もご覧ください

アートマネジメント研修プログラム2018
～アーティスト・イン・レジデンス～
マイクロレジデンスミーティング2019
京都 in 西陣
日時：2月9日（土）・10日（日）
会場：臨済宗興聖寺（上京区）
料金：一部有料
申込締切：1月31日（木）
※詳細・申込はウェブサイトをご覧ください
主催：Microresidence Network、NPO ANEWAL Gallery、京都芸術センター

ライブラリー

「あの人の、おすすめ本」
今回は2月の展覧会『逡巡のための風景』を企画するインディペンデント・キュレーターの青木彬さんです。
日時：1月5日（土）−3月28日（木）
10:00−20:00
※休室日：1月31日（木）、2月28日（木）
会場：図書室

明倫ワークショップ

京都芸術センター制作室で創作活動を行うアーティストによるワークショップ。（参加無料）

劇団飛び道具「『短針』公開稽古」
日時：2月2日（土）18:30−20:30
会場：制作室12
定員：15名

宙宙「制作室空間体験−もうひとつの展覧会」
日時：2月16日（土）、17日（日）11:00−18:00
会場：制作室4

久保ガエタン・名倉聡美

オープンスタジオ「絵動説」
日時：2月17日（日）10:00−20:00

「浦島太郎にとって竜宮城はアナザースカイだったのか?−海外美術研修のメリットデメリットを話し合う」
日時：2月17日（日）16:00−18:00
登壇：久保ガエタン、小宮太郎、堤拓也（スカイプ）、宮坂直樹

会場：制作室2

松井沙都子「家のはなしを聞かせて。
−光のインスタレーションを作ろう−」
日時：2月23日（土）15:30−18:00
※一般公開は17:00−17:30
会場：制作室8
定員：10名
持物：家であった出来事または思い出に関する品物1点以上
対象：小学生以上

京都フィロムジカ管弦楽団「京都フィロムジカ管弦楽団室内演奏会」
日時：3月3日（日）13:00−14:00
会場：制作室12
定員：20名

KACセレクション

Monochrome Circus
『FLOOD』Dance Performance窓
日時：3月1日（金）19:30
2日（土）16:30／20:00
3日（日）14:00
会場：フリースペース
料金：一般前売3,000円／当日3,500円
学生前売2,500円／当日3,000円
演出：坂本公成、森裕子
主催：Dance & Environment

金沢舞踏館『ふいご少年と煙玉少女』
京都公演窓
日時：3月5日（火）、6日（水）19:00
会場：フリースペース
料金：一般前売3000円／当日3500円
※学生は各500円引
主催・予約・問合せ：金沢舞踏館
TEL：090-9440-6903
E-mail：butohkan@spacelan.ne.jp

『CCMC 2019 Kyoto』窓
日本とフランスの電子音響音楽をアクースモニウム（電子音楽を上演する音響システム）で上演。
日時：3月8日（金）18:00、9日（土）17:00
会場：フリースペース
料金：1日券1,500円／2日通し券2,000円
主催：音と音楽・創作工房116（ACSM116）
問合せ：ACSM116事務局
E-mail：acsm116@gmail.com

制作支援事業

正直者の会『戯式vol.9』
田中遊の"ほぼ"一人芝居。俳優1人、ラジカセ3台+iPadでお届けする奇妙な世界です。
日時：2月16日（土）15:00／19:00
17日（日）13:00
会場：人間座スタジオ（左京区）
料金：一般2,000円／U22 1,500円（前売・当日共）
問合せ：田中遊
TEL：090-6066-5845（田中）
E-mail：mail-web@syoujikimono.net
WEB：http://www.syoujikimono.net

劇団飛び道具『短針』
南洋に沈んだその船には私の家族が乗っていた。父、母、弟、4人の妹。
日時：2月21日（木）19:00
22日（金）14:00／19:00
23日（土）14:00
24日（日）11:00／15:00
会場：人間座スタジオ（左京区）
料金：一般2,500円／U25 2,000円（前売・当日共）
問合せ：劇団飛び道具
E-mail：tanshin@tobidougu.jp
WEB：http://tobidougu.jp

サファリ・P 第5回公演『悪童日記』
アゴタ・クリストフの小説『悪童日記』を身体性と発話にこだわって舞台化。
日時：2月28日（木）19:30
3月1日（金）13:00
会場：京都府立文化芸術会館 ホール（上京区）
料金：一般前売 3,000円／当日3,500円
ペア割 5,000円
U25 1,500円（各ステージ先着10名）
※WEB予約のみ
問合せ：
TEL：080-9462-3355（サファリ・P）
E-mail：safari.p@stamp-llc.com
WEB：http://stamp-llc.com/

TICKETS　チケット販売

第253回市民狂言会
茂山千之丞襲名、おめでとう！ 公演
日時：3月1日（金）開場18:30 開演19:00
会場：京都観世会館（左京区）
演目：盆山、船渡聟、右近左近、神鳴
出演：茂山七五三、あきら、千三郎、千五郎、宗彦、茂、逸平、童司改メ千之丞
料金：前売2,500円／当日3,000円
チケット取扱：京都芸術センター、大丸京都店、高島屋京都店、チケットぴあ（Pコード：490-452）
※団体券2,200円（20名以上）は京都芸術センターにて取扱
主催：京都市

KAC Performing Arts Program
2018 / Music #2
増田真結×田中遊
新音頭『告白』友
日時：3月17日（日）開場15:30 開演16:00
会場：講堂
構成：増田真結、田中遊
作曲：増田真結
出演：田中遊（声）、中村圭介（ピアノ）、山田岳（ギター）
原作：町田康『告白』
料金：一般前売2,000円／当日2,500円
学生1,500円（前売・当日共）

みみききプログラム #2
素謡の会「うたいろあはせ」
第3回友
日時：3月28日（木）
受付18:00 開場18:30 開演19:00
会場：大広間（待合：講堂）
演目：素謡『車僧』
地点 松元松代『常陸坊海尊』ほか
出演：浦田保親、大江信行、田茂井廣道、深野貴彦
ゲスト：劇団「地点」
料金：前売1,500円／当日1,800円
※みみききプログラム共通の半券割引が利用できます

ロームシアター京都×京都芸術センター
U35創造支援プログラム
KIPPU採択企画
akakilike『はじめまして こんにちは、今私は誰ですか?』
日時：2月15日（金）19:00
16日（土）13:00／17:00
主催：akakilike
会場：ロームシアター京都 ノースホール（左京区）
料金：前売3,000円／当日3,500円
共催：ロームシアター京都、京都芸術センター、京都市

チケットぴあで取扱いのチケットは、電話、ぴあ窓口、コンビニエンスストア（セブン・イレブン、サークルKサンクス）の専用端末などからご利用いただけます。
WEB：http://t.pia.co.jp　TEL：0570-02-9999

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および窓印の共催事業・制作支援事業

OPEN CALL　募集

アーティスト・イン・レジデンス
プログラム2019：エクスチェンジ／
ARTSPACE 参加アーティスト募集
2019年8月−10月にARTSPACE（シドニー、オーストラリア）でリサーチ、制作に取り組むアーティストを募集します。オーストラリア・アーツ・カウンシルとの連携プログラム。

支援内容：
・制作費200,000円（内税）
・生活支援費150,000円（内税）
・往復航空券（関西国際空港または大阪国際空港−シドニー間）
・宿泊場所、スタジオの提供
・コーディネーターのサポート
締切：1月31日（木）

※詳細は要項及びウェブサイトをご覧ください

REVIEW

関西圏の公演・展覧会について、
若手レビュアーが月替りで執筆します。

ダンス

馬鹿げて、真摯で、美しい

ゆざわさな

MuDA衝突ダンスパフォーマンス
『立ち上がり続けること』
2018年11月23日(金)−25日(日)
京都芸術センター フリースペース(京都市中京区)

水風船の中に墨汁を入れて
それを高い位置から真っ白な床に向かって
何度も投げ落とし
飛び散った墨汁で絵を描いていく。

MuDA「立ち上がり続けること」を観て、こんなイメージを受けた。ダンスを、身体を、人間を、観たという強い自覚が得られる作品であった。40分ほどの作品中、ひたすらに倒れては立ち上がることを繰り返す3人のダンサーには、なんて馬鹿なんだと思うと同時に、なんて真摯で美しいんだと思った。舞台上で起こるのは「倒れる」と「立ち上がる」ただこれだけだ。それは単純な動きのループのようでいて、見慣れることは決してなく、毎回ひやひやさせられるほどの勢いがある転倒と新鮮さを失わない重心の落下は、観る者を飽きさせない。ダンス作品を観て、久々に息をするのを忘れていた。ダンサーたちの動きは必然だった。彼らは倒れようとしているのではない。倒れざるをえなくなり、倒れたからには立ち上がらざるをえなくなるのだ。立ち上がったら、また倒れずにはいられなくなる、「立ち上がり続ける」動きのループが産まれる。それは作業として繰り返されるルーティンではなく、あくまでも動きのループだ。輪を描くようにぐるぐると回って、終わりを知らない。だから彼らは「立ち上がり続ける」しかないのだ。

黒ずくめの衣装に、真っ白な舞台美術。床から60センチほどの高さがある舞台は、土俵のようにも見える。黒い衣装や、ダンサーたちが髪を振り乱すことなどの色々な要素が相まって、先に書いた墨汁のイメージを受けた。はじめ、ダンサーたちが振り乱す髪は書道の筆のようにも感じられたが、やはり落下のイメージが強く残り、筆で書くというよりは、水風船が割れて、中に詰められていた墨汁が飛び散るイメージの方がしっくりきた。白い紙に黒い液体を投げ落とし、それが広がって跡になる。行動は乱暴だが、できた跡は力強く美しい。ダンサーたちが床に倒れると、その音は会場中に反響する。波紋のように広がりながら薄まっていくその音もまた、紙に墨汁が染みていく様子を連想させた。土俵のような舞台、墨汁のイメージ、不思議と和の要素を強く感じさせた。

MuDAの作品を観たのは今回が初めてだった。黒塗りで、ハイパーパフォーマンス集団と名乗る、なんだか危なっかしいパフォーマンスをするカンパニーと勝手に認識していたが、純粋かつシンプルにパフォーマンスを追求するカンパニーだと知った。本作を通し、馬鹿げていると思わせるほどに、真摯に身体と向き合ったMuDAに拍手を送る。これから、もっと振り切っていて、愚直で、真摯な、ダンスが観たい。

(11月25日15時の回を鑑賞)

ゆざわ さな／ダンサー、ダンス講師、The bomb/舞台企画back☆pack主宰●1月25日(金)−27日(日)上演の『シティ』のプロデュース、2月3日(日)関典子『モーションクオリア研究』での制作。2019年、年明け早々ダンス!ダンス!な日々が始まります。たくさん観て、たくさんキャッチする1年にします。

photo by taido

美術

記憶を読む

平田剛志

『記憶の図書室』
2018年11月17日(土)−2019年1月26日(土)
あべのま(大阪市阿倍野区)

photo by Takahashi Shizuka

人はどんな本を読んできたのだろう。図書館で本を借りたとき、まれに以前の利用者の貸出レシートがページに挟まっていることがある。そのレシートに記された書名を見ると、顔も知らない人の好みや関心、人柄を想像してしまう。図書館の本を共有するからこそ生まれる想像のつながりだ。

あべのまで開催された『記憶の図書室』は、企画協力者であるサトウアヤコが2002年から現在までの17年間に蓄積した1000枚にも及ぶ図書館の貸出レシートと所蔵する本を介して、生活と思考の軌跡を辿る展覧会だ。

会場は、実際の貸出レシートが二点壁面に額装展示され、中央に六角形状にパネルが並ぶ。パネルの外側にはレシートをタイピングして年代ごとにまとめたリングファイルが置かれる。内側には実際に購入された本が読書ノートと共に発想、空間、詩などテーマ別に並ぶ。これらの本は実際に手に取り、一部は借りることもできる図書室となっている。

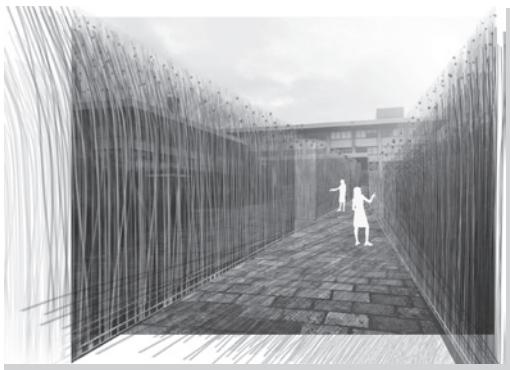
驚くのはファイルの貸出記録だ。サトウは毎日のように図書館に通い、さまざまな本や雑誌を借りているのだ。それも小説、短歌、詩、古典から哲学・現代思想、ビジネス書、エッセイ、コンピューター、料理、編み物、旅行雑誌までと幅広く、図書館を使い倒している。ページの合間には「ヴォイス」「ギフト」「ル=グィン読み直し。」「父親が亡くなる。」など当時の心境や状況を綴った短いコメントが挿入され、無機質な貸出リストに栞のように感情が加わる。ページをめくるたび仕事や社会、病気、家族、自身の感情と向き合う心の動きが行間に滲み、日々の貸出記録が物語のように読み手の感情を揺さぶる。

こうした日付の記録と言えば、河原温の日付絵画やルーズリーフにその日読んだ新聞記事をスクラップする《I READ》(1966-95)などを想起する。だが、サトウが河原と異なるのは、創造的な行為の軌跡だ。なぜなら、貸出履歴は過去だが、図書館に行き、本を選び、借りる行為は問題意識や知的欲求の発露であり「表現のたね」だからだ。

サトウは場所に潜む記憶や習慣を地図上に視覚化する「日常記憶地図」、他人の本棚に個人的記憶や背景を探る「本棚旅行」、カードを使って言葉を可視化し、対話を生むメソッド「カード・ダイアローグ」など見えない言葉や感情を言語化するプロジェクトを行ってきた。

『記憶の図書室』は、アーティスト・文化活動家アサダワタルの言葉を用いるなら「日常再編集」と呼べるだろう。「日常再編集」とは、日常風景を自らの関心に基づき整理し、創造的に編集し直す試みである。つまり、本展は、図書館で本の貸出、返却を繰り返す記録と記憶を「再編集」し、貸出レシートを介して人が本と出会う「図書室」として空間化したのだ。本を借りることははじまりに過ぎない。貸出レシートはサトウの記録だが、鑑賞者が書棚にあった本に興味をもったなら、新たな未来のはじまりだ。本には未来の記憶がある。

ひらた たけし／美術批評●MOVIX京都にて『日日是好日』を観ました。主人公の女性が25年間お茶を習う茶道教室の先生役・樹木希林さんの「こうして毎年同じことができることが幸せ」という言葉にお茶のような甘みと渋さを感じました。



Eugene Soler

京都文化力プロジェクト2016-2020

街にアートがPOP UP!

2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に、京都で行われる文化と芸術の祭典「京都文化力プロジェクト」。今年度のリーディング事業は京都芸術センターが企画・制作を担当し、この2月から3月にかけて京都市内各所で多数の事業を展開します。

北山エリアでは、大規模な野外インスタレーション作品を展示します。このプログラムでは、閉館し現在は使われていない旧資料館の前庭に新たな息吹をもたらす作品プランを昨年夏に公募し、14カ国111件の中から建築家ユージン・ソレールのプランを選出しました。嵐山の竹林から着想を得た、全長3.6mの葦(よし)が5万本立つ壮大な空間。わずかな風に葦が揺れ先についた鈴が鳴ることで、風を見て、風を聴きます。ソレールはフィリピンに生まれ、オーストラリアや英国で教育を受けて、現在は奈良在住。日本国内外で活躍する彼が、京都の自然を繊細に捉える作品です。また葦を土台に挿して立てていく設営作業は田植えをイメージしており、お手伝いくださるサポートスタッフの方々と共につくりあげます。

展示初日には、公募展授賞式と共に、建築家の青木淳、彫刻家の名和晃平、森美術館副館長兼チーフ・キュレーターで公募展の審査員でもある片岡真実と、世界的に活躍する専門家を登壇者に迎え、都市と芸術の関係についてのシンポジウムを行います。

また同時に岡崎エリアでは、注目のアートユニット・ヨタによる、予想を裏切る新鮮でわくわくするような作品が登場します。その他、カラオケ映像をつくるワークショップや茶会らしからぬ茶会など、バックグラウンドも専門も異なるつくり手たちがそれぞれの方法で「京都」を見つめなおす取り組みを、楽しく体感できる機会が目白押しです。北山や岡崎を巡り、寒い冬を元気に乗り切りましょう。

建築に興味がある方、共に真冬の田植えを楽しみたい方、ご参加心よりお待ちしております!　遠山きなり(アートコーディネーター)

片岡真実 photo by Danial Boud

青木淳

建畠哲

名和晃平 photo by Nobutada Omoto

ユージン・ソレール
『Kyoto Urban Wind Installation』(野外展示)
日時：2月16日(土)−3月17日(日)10:00−17:00
※会期中無休・入場無料
会場：旧京都府立総合資料館 前庭(左京区)

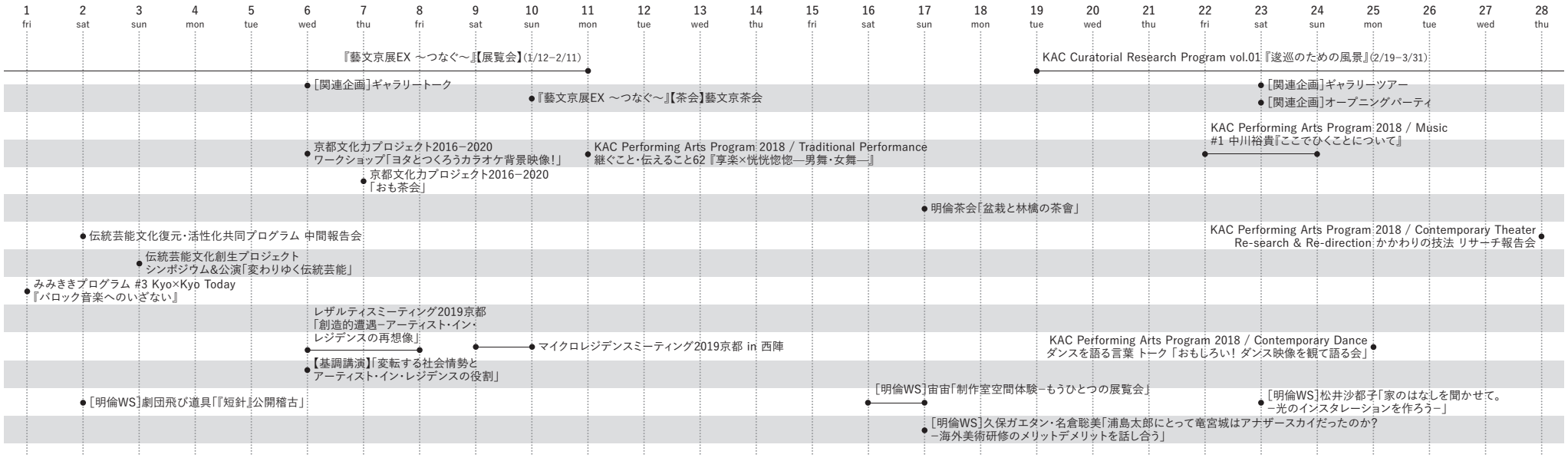
サポートスタッフ募集中!
活動期間：2月1日(金)−15日(金)
活動場所：旧京都府立総合資料館 前庭
参加条件：寒空の下、元気に活動できる方
応募方法：氏名と連絡先を明記し、popup@kac.or.jpまで

「都市空間における祝祭と文化」(シンポジウム)
日時：2月16日(土)14:00−16:00
会場：京都府立京都学・歴彩館(左京区)
登壇：青木淳、名和晃平、片岡真実
進行：建畠哲(京都芸術センター館長、多摩美術大学学長)

その他各種イベントの詳細はウェブサイトをご覧ください。
http://culture-project.kyoto/pages/feature04

主催：京都文化力プロジェクト実行委員会
(京都府、京都市、京都商工会議所等)
申込・問合せ：京都芸術センター
TEL：075-213-1000　E-mail：popup@kac.or.jp

EVENT CALENDAR 2/1 ▶ 2/28



図書室休室日：2月28日(木)

TOPIC 02

KAC Performing Arts Program 2018 / Music #1

中川裕貴『ここでひくことについて』

KAC Performing Arts Program / Musicでは、ジャンルにとらわれず新たな音楽を生み出すプログラムを展開しています。2018年度は、音楽のみならず演劇・ダンスなど多分野で作曲・演奏を手掛けてきた中川裕貴と、声や言葉を素材とした曲を生み出してきた増田真結に着目。今回は第一弾となる中川裕貴『ここでひくことについて』を紹介します。

今、此処で演奏すること／個々で演奏すること。何かから距離を取ること。エリアを再定義すること。リアクション…。様々な意味合いを示唆する『ここでひくことについて』では、中川による三つのプログラムを通じ、「演奏行為」について考察します。

中川のソロとなるプログラムA『PLAY through ICONO/MUSICO/CLASH』では、美術（稼働する物体や機構）、照明を大胆に使用し、中川の演奏と美術、照明、あるいは音と行為、モノ・コトが「衝突」しあう中で、音楽を生み出すこと・破壊する（踏み抜く）行為の本質に迫ります。プログラムB『Not saying "We (band)"』では、チェロ・ピアノ・ヴァイオリンの3名を中心とした「中川裕貴、バンド」による作曲作品を演奏するコンサートを実施します。バンドでの演奏を通じ、集団で演奏すること、集団でひとつの音楽を生み出すこと、さらにその中での「ここ」について問いかけます。そしてプログラムC『"You are not here" is no use there』では、観客はFM受信機とイヤホンを装着、館内を移動しながら受信される音を聴くことと同時に、館内の各場所で起こる現実のイベントを鑑賞します。ここではイベントと録音を、「どこでどのように聴くのか、あるいは聴かないのか」は観客に委ねられ、音楽が生まれることと受け取ることについて、前述のプログラムA、Bとは別の視座が提供されます。三つのプログラムはそれぞれ単体でも成立しますが、空間や奏者の構成が全く異なる中での演奏を比較することで、より深く楽しめることでしょう。

音楽において当たり前に存在する「演奏」という行為。聴くこと、メディア、そしてヒト／モノの立ち位置、定義が変化しつつある今、その行為をあらためて問い直してみることで果たしてどのような時間・空間に出会えるのでしょうか。

中川裕貴、バンド「対蹠地」(2017)　撮影：Yoshiyuki Sakuragi

Profile

中川裕貴（なかがわ ゆうき）
1986年生まれ。演奏と演出をチェロ、電気、録音を使用して行う。自身の「演奏」と、それによって現れる「音」のあいだにある「距離」を演奏しながら測ることが最近の目的。並行して「中川裕貴、バンド」活動や、烏丸ストロークロックを代表とした演劇などに向けた舞台音楽、またミュージシャン／アーティストのサポートもいくつか行っている。京都市立芸術大学大学院 音楽研究科修了（音響心理学/ 聴覚）。

今まで何度も中川さんのライブに足を運んでいますが、いつも中川さんが演奏するこの空間にもっといたいという気にさせられます。チェロを弾き、叩き、電気で増幅・変調させる中川さんの「演奏行為」は必見です。
奥村麻衣子（アートコーディネーター）

KAC Performing Arts Program2018 / Music #1
中川裕貴『ここでひくことについて』友
日時：2月22日（金）16:30(C) 18:00(A) 19:30(B)
23日（土）15:00(B) 16:30(C) 18:00(A)
24日（日）13:00(C) 14:30(B) 16:00(A)
会場：講堂、フリースペース、大広間
出演：中川裕貴（チェロ）、菊池有里子（ピアノ）
横山祥子（ヴァイオリン） ほか
料金：【各演目（日時指定）】
一般前売1,500円／当日2,000円
学生1,000円（前売・当日共）
【3演目通し（30枚限定、前売のみ、予約時日時指定）】
一般3,500円／学生2,500円

TOPIC 03

明倫茶会

「盆栽と林檎の茶會」

芸術、学術、産業など、各分野で活躍する方が席主となってお客様との一期一会を演出する明倫茶会。席主それぞれが趣向を凝らしてお客様をお迎えするこの茶会は、現代の文化芸術を再発見する機会となっています。2月は、盆栽研究家の川﨑仁美による「盆栽と林檎の茶會」を開催します。

川﨑仁美は、盆栽研究家として国内外で活動し、盆栽の魅力を伝えるための講演やキュレーション活動を行っています。今回の茶会では、岡崎で50年続く喫茶店「ラ・ヴァチュール」の店主、若林麻耶のタルトタタンと共に盆栽をお楽しみいただきます。しつらいの構成は、空間デザイナーでもある若林が手掛け、いつもとは一味違う見せ方で盆栽の魅力を味わう一席を演出します。

今回、川﨑が茶会を催すにあたって若林のタルトタタンを選んだのは、盆栽とタルトづくりに共通するところを多く見出したためだと言います。盆栽は、ある種の骨董品として愛好される対象物でありながら、それ以前に生きた植物であるために、環境や手入れの差異によってその姿を変えていきます。盆栽職人は環境の微妙な変化や盆栽の状態を観察し的確な手入れをするために、長年の経験に基づく高い技術を有していなければなりません。

対象の状態を見極めることの大切さは、タルトタタンづくりでも同じだと若林は言います。祖母の松永ユリさんから受け継いだその味は、決まったレシピと手順に従うのではなく、季節や個性によって異なる水分量や味の特徴に合わせることで作られています。日々異なった表情を見せる自然への敬意は、盆栽にも共通するものかもしれません。

また、盆栽が人から人へと時を越えて受け継がれ、その骨董的価値が現在の作り手の価値判断や自己表現に先立つものであるように、若林のタルトタタンも、伝統の味が現代の感性をもって受け継がれてきていることが、その魅力のひとつとなって愛されてきました。

ラ・ヴァチュールのタルトタタンを、幕末の文人文化の中で盆栽と並び嗜まれてきた煎茶とともに。この機会に楽しんでみてはいかがでしょうか。

素謡の会『鉢木』(2017)待合（待合演出：川﨑仁美）　撮影：林口哲也

盆栽と林檎にかこまれた空間で、とっておきの一服をどうぞお楽しみに。
當間芽（アートコーディネーター）

Profile

川﨑仁美（かわさき ひとみ）
高校3年生から盆栽雑誌のナビゲーターを務めながら独学し、2002年より「現代盆栽」を主宰。「日本盆栽−小さな巨木」をキーワードに国内外で盆栽の解説・キュレーションを行う。京都工芸繊維大学大学院後期博士課程修了。京都造形芸術大学非常勤講師。

若林麻耶（わかばやし まや）
両親の影響もあり美術高校を卒業後、武蔵野美術大学で空間演出デザインを学ぶ。卒業と同時に幼少期を過ごした祖母の喫茶店「ラ・ヴァチュール」を継ぐ。祖母が魅了され作り続けてきたフランスの郷土菓子「タルトタタン」を焼く傍ら空間表現も続けている。

明倫茶会
「盆栽と林檎の茶會」友
日時：2月17日（日） 13:00／14:00／15:00／16:00
席主：川﨑仁美（盆栽研究家）
空間：若林麻耶
本席：講堂
待合：ミーティングルーム2
内容：盆栽、タルトタタンと煎茶
料金：1,000円
定員：各席20名（先着順／要事前申込）

TOPIC 04

レザルティスミーティング2019京都

「創造的遭遇―アーティスト・イン・レジデンスの再想像」

アーティストや芸術に関わる人が一定期間、普段の生活とは異なる場所で作品や研究を行うアーティスト・イン・レジデンス（AIR）について考える国際会議を京都で開催します。

2018年レザルティス会議の様子

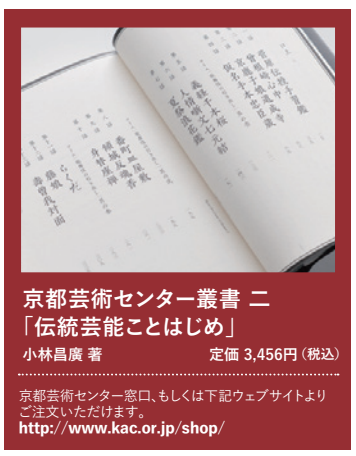
レザルティス（Res Artis）は1993年に設立されたオランダ・アムステルダムに本部を置く、世界最大のアーティスト・イン・レジデンスのネットワーク組織です。レザルティスミーティングには各地でレジデンスプログラムを運営するオーガナイザーが世界中から集結します。アーティスト一人ひとりが持つ考えが異なるのと同様に、多様なAIRのモデルケースが生まれています。この会議では、それらのケースを世界規模で考えます。なかなか同時に聞くことがないAIRに参加する側と運営側、双方の意見を聞けることが、このミーティングの特徴と言えます。相互の目的とゴールがどこにあるのかを見直し、関わり方を考え直す時間と場になることでしょう。AIRの「進化」、「新類型」、そして「未来に向けて」をテーマとした3日間のスケジュールでは、今どのような傾向が見られるのか、どの点を進化と捉えられるのか、更にその先の可能性について議論し共有していきます。

“アーティストをサポートする仕組みについて考える”響きのよい言葉に聞こえます。表舞台としての作品が持つストーリーの一部に携わるAIRの進化に遭遇する裏舞台を見逃すまいと目を見開いて挑みます。　水野慎子（アートコーディネーター）

レザルティスミーティング2019京都
「創造的遭遇−アーティスト・イン・レジデンスの再想像」
日時：2月6日（水）−8日（金）　会場：京都芸術センター ほか ※申込受付は終了しました

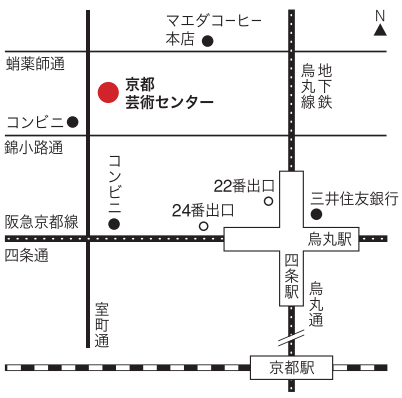
【基調講演】「変転する社会情勢とアーティスト・イン・レジデンスの役割」
日時：2月6日（水） 14:00−15:00　会場：フリースペース
登壇：近藤誠一（公益財団法人京都市芸術文化協会理事長、元文化庁長官）
※無料・要事前申込

主催：京都市、京都芸術センター、レザルティス財団、文化庁
※イベント情報（P2）もご覧ください



京都芸術センター

交通案内
○市営地下鉄烏丸線「四条」駅／
阪急京都線「烏丸」駅22番出口・24番出口より徒歩5分。
○市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間
○ギャラリー・図書室・情報コーナー・チケット窓口 …… 10:00−20:00
○カフェ …… 10:00−21:30
○制作室、事務室 …… 10:00−22:00

〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL：075-213-1000　FAX：075-213-1004
E-mail：info@kac.or.jp　URL：http://www.kac.or.jp/
twitter：@Kyoto_artcenter
http://www.facebook.com/kyotoartcenter